

J A鹿本には園芸・果樹・普通作など様々な部会があり、「夢大地」ブランド確立に向け品質・生産技術向上に努めています。部会では試行錯誤して毎年様々な取り組みを実践しています。



▲清田博成部会長



もっと多くの人に知ってもらおう

大切です。タイミングが合うと、縦に大きく葉がしっかりつまったセルリーに育ちます。アドバイザー巡回で二重被覆のタイミングや養水分管理、防除など指導を行うことができ、部会員全員が中心階級（2L）の出荷が増え、部会員一人ひとりの収量アップ、所得増大に繋がっています。



▲試食販売会

ぷらなどの試食を通してセルリーの美味しさを伝え、「ファンを増やすこと」を目的に行っています。試食販売会を行った後、リピーターが絶えないと好評です。

今年から熊本大同青果で市場関係者に向けた試食宣伝会を行っています。市場関係者への鹿本産セルリーの認知度向上と食べ方の提案を行い、更なる販売の拡大に努めています。



▲市場関係者に向けた試食宣伝会

セルリーを多くの方に知ってもらいために、部会員が出向き、試食販売会などを積極的にに行っています。

毎年、広島県（ゆめタウン）とファーマーズマーケット夢大地館等で試食販売会を行って行っています。酢

の物やスープ、天

～セルリー部会の取り組み～

独自巡回で中心階級の収量アップ!

J A鹿本セルリー部会は部員18人。秋冬栽培として取り組んでいます。セルリーは「セロリ」のこと。現在、県下J Aの中で最も栽培面積が大きく、部会組織で栽培に取り組むのはJ A鹿本が初めてです。

秋冬栽培をセルリーにするワケ理由

● 燃油コスト削減

セルリーのハウス内最低夜温は他の作物より低めで管理でき、燃油のコスト削減に繋がります。

● 後作の施肥量が削減できる

セルリーは多肥を必要とする作物で元肥の量が多く、追肥も定期的の実施するため残肥もあり、収穫後は、そのまま春夏農産物の栽培が可能です。

● スイカとの相性抜群!

セルリーを栽培した土壌はスイカ栽培に適しています。セルリー部会員のほとんどがセルリーの後作としてスイカ栽培に取り組んでいます。

月2回の営農アドバイザー巡回

セルリー部会では平成26年度より、セルリーを植え付けしてから収穫までの毎月2回、部会長をはじめとする栽培技術が優れた部会員、J A営農指導員、J A販売担当職員が部会員の圃場を巡回しています。巡回ではセルリーの生育状況を確認し、今後の管理方法をアドバイスしています。セルリー栽培で特に重要なのが温度と湿度。生育途中で株の大きさ、葉色、葉柄の状態を確認し、どのタイミングでビニールの二重被覆を行うか見極めが

